

来年はよい年を

今年一年の文学 「出だ」氏

事当にそうだ 夏のあつさ 古今集のふゆ

大田 大阪空船の空航路の 水没 広島子たり

の奇だね 比 海道の地震 こそわら 子なりと

かざりがあふ

温暖化による 季節変動は地球にのみだ

ガラス 下五スケツク海よりさぬ そして

宇宙のゴジラ

よくあしニとが次々ニエースとあつた

私個人も変化があつた

今アマテス^レの交替だ

介懐にフいていろいろ面倒を見てくれる

今アマテスは日たの 全話の 幸不幸を 佐石する

大田おおス止ときいてり

今アマテス^レは 皇いフきあふた

今^レのうちは 何もしないのが今アマテスと

思ひていた

そのうちいじわら だろと 氣水つりた

いいですわ 七月かかるとんりあま 七月

年金を返すに困ったので、
 とり人ビリをうける言わね
 人には自尊心というものが
 押さえるのも、
 うらとくりにあきらめし
 次は各へルバースの
 せと際、
 自分でさあし自分で
 ち、私はその通りし
 で「クリニク」の
 一人のヘルバース

一人のヘルバースは、
 ち、そのヘルバース
 くりとあきらめし
 行つていく
 ち、ヤマノエと
 明けから月本舎の
 おまは自分ごと
 参政会を
 午のつと
 明朝の公平は

一人のヘルバースは、
 ち、そのヘルバース
 くりとあきらめし
 行つていく
 ち、ヤマノエと
 明けから月本舎の
 おまは自分ごと
 参政会を
 午のつと
 明朝の公平は

一人のヘルバースは、
 ち、そのヘルバース
 くりとあきらめし
 行つていく
 ち、ヤマノエと
 明けから月本舎の
 おまは自分ごと
 参政会を
 午のつと
 明朝の公平は

明朝の公平は

を奪はにする。このは人同として、
のを奪は
根絶する。このは

世のひりり心り一人、
ラス、と、
しに奪は

まを、
ひり、
じ、
め、
だ

まを、
ひり、
ア、
マ、
ネ、
交、
替、
の、
理、
解、
を、
し、
た

五月三十日、
ヤ、
と、
軌、
道、
に、
の、
つ、
て、
来、
た

つ、
う、
の、
自、
分、
を、
す、
ま、
よ、
う、
と、
し、
て、
い、
る

ま、
を、
三、
日、
で、
来、
年、
だ

ま、
を、
三、
日、
で、
来、
年、
だ、
い